

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500161		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1390-1		
自己評価作成日	令和 元年 10月 28日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 元年 11月 19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①認知症の緩和・改善 ②身体機能の維持・回復 ③精神状態の改善・安らぎを目指し、口腔ケア・サプリメント補給を取り入れている。④エアマットや低反発マットやクッションを使用して褥瘡予防を行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年に移築されたホームは、周囲には田園が広がり、季節の移り変わりを感じることができ、近くには小学校があるため子どもたちがホームを訪れ交流することができている。ホームの理念のもと全職員が入居者に対して尊厳ある支援に努め、質の向上のための勉強会や研修に参加し、スキルアップを行っている。認知症予防や身体機能の維持のための取り組み、栄養面においても配慮がされており、食物繊維の多い食材やサプリメント、健康茶を提供され、健康改善にもつながっている。地域・家族とのつながりを大切に、地域行事へ参加することで交流が図れたり、家族との連絡を密にし、訪れやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは常に理念を意識し、理念に基づいて実践に取り組んでいる。新たに『死の教育』のセミナーを取り入れ、外部の方も参加されている。	ホーム内に理念を提示し、職員間で共通理解を図っている。『死の教育』のセミナーでは、看取る上で大切なことを取り上げ、意識づけをしながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	黒川町民運動会などを観覧しに行った。また、黒川幼稚園との交流も行っている。	ホームの近くには小学校や幼稚園があり、クリスマス会や運動会等の行事がある時は参加し、交流が図れている。子ども達や近所の方がホームに来ることもあり、開放されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折、家族や地域の方の参加者に対し、現場の取組みなどを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際のケアの取り組みを紹介し、ホームの理解をしていただけるよう努めた。今年度も2か月1回実施している。(4・6・8月実施)	運営推進会議では活発な意見がでやすいように話しやすい雰囲気づくりを行い、地域の方や家族と一緒に取り組める内容を取り入れている。会議の結果については、周知できるよう家族や関係者に報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	伊万里市主催のコミュニティケア会議に参加したり、運営推進会議に市の担当者に参加して頂き、ケアの取り組みを紹介した。	行政主催の会議には毎回参加しており、行政から新たな情報を収集したり、ホームでの取り組みを報告するなど、行政との連絡を密にし連携を図ることができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵を入居者様本人が外す等の理由で止むを得ず拘束する場合は、家族に説明を行い、了承を得ている。現在、対象者なし。	現在、身体拘束はしていない。身体拘束委員会を立ち上げ、勉強会や研修に参加し、理解を深めている。入居者に対する声かけにも注意をはらい、職員間で意識しながら支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対する言葉づかいや態度をお互いに確認し合っている。虐待防止に関する研修会にも参加し、ホーム内でも事例を出し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらを活用できるよう時々確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会や電話連絡で日々の状況報告をし、相談しやすい関係が形成できている。運営推進会議で外部委員の意見も取り入れ、会議録や意見用紙を家族に送付し、要望を聴取している。	ケアプランに対しての要望は意見用紙を送付し聴取したり、家族面会時には、傍に寄り添い不安などが無い聞き取りを行っている。電話やメールなど家族と連絡をとっているが、まだ十分とは言えない。	家族との連絡が円滑にできるような工夫をさらに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや代表者との食事会などで意見交換が行われ、スタッフの意見や提案等運営に活かしている。	職員の関係は良好で、意見を表出しやすい雰囲気づくりができています。課題抽出委員が職員の困った事や意見を聞き出し、話し合いの場を設け、解決できるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な配慮を心がけている。また、食事会や温泉・マッサージなどの慰安にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人的なかかわりを持つ機会を増やし、個人に応じた支援が出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会などに積極的に参加できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優先的に関わる時間を取り生活歴、ご本人の気持ちなど理解や把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている。(医療機関による通所リハビリなど)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り同じ立場に立つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各自のなじみを把握し、なるべく個人対応できるように努めている。地域の散歩や地域の運動会に参加している。	地域の行事やイベントに参加しており、地域の方とのコミュニケーションや交流が図れている。近所の人々が来訪した時には、また来ていただけるような声かけをしたり、要望があれば個別外出を行い、馴染みの場所へ一緒にでかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業の分担や役割などを持ち、それぞれが貢献しているという意識を高められるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向を確認するよう努めている。(買い物、外出など)。家族と連携を図りながら散歩・外出・外泊できる方は自由に行われている。	入居者がゆっくり話しができる時間や場所で意向の確認を行っている。意向を言葉で伝えることができない人は、日頃の行動や様子を観察し、家族からの情報収集をおこない把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努めている。入居後も御家族の面会時にお話を伺ったり、ご本人と思い出話をしたりして情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、体調に応じてその日の過ごし方や作業内容の工夫を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的(3か月)に担当者会議を行い、担当者の意見や家族の意見を参考にし、全スタッフで評価を行い支援内容を見直し、介護計画を作成している。	プランは本人や家族の意向が反映され、主治医の所見も取り入れ作成されている。全職員が集まり評価を行っており、状態が変われば随時更新されている。職員間でプランを共有し、プランに沿った支援ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3か月に一度、または心身状態に変化がある時は検討会を持ち、介護計画の見直しに心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズについての検討会を持ち、臨機応変にサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、その他の活動を把握し、活用に心がけている。(町民運動会・小学校の相撲大会小学校の運動会へ参加した。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を密にし、病状により専門医受診をしたり、歯科・眼科・整骨院の往診を受けている。	近隣病院の定期的な往診を受けることが多いが、必要に応じて専門医やかかりつけ医への受診の付き添いを行っている。受診結果については、その都度、家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報の交換共有を通して、迅速な検討をし適切な対処を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめな病院訪問に心がけ、情報提供を頂きながら、連携をとりつつ協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前にガイドラインを用いて説明を行い、状況に合わせて、ご家族と医師とその都度話し合い、尊厳ある対応ができるように取り組んでいる。	家族へホームでの看取りができることを伝え、希望があれば家族と十分に話し合いをしながら対応している。『死の教育』に対して、学ぶ場を職員間で設け、理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度の防災訓練時は酸素ボンベによる吸入手順を確認している。また、急変時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導も受けている。市主催のコミュニティケア会議で得た情報や資料等を活用し、毎月1回はホーム内で防災訓練を実施している。	日頃より、備蓄品の確認やホーム内の掃除をこまめに行い、異常がないかチェックしている。年2回は消防署と連携し、日中や夜間を想定し訓練を行っている。しかし、地域住民や消防団などを含めた避難訓練の実施までには至っていない。	地域住民を含めた避難訓練を実施することで、災害時の協力体制を構築する取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昼夜問わず、その人の立場に立って考え、思いに寄り添うケアを行っている。	入浴や排泄時は、プライバシーに配慮した環境設定や声かけを行っている。職員間で勉強会を実施し、寄り添ったケアについて共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を確認するようし、職員が決定権を持つのではなく、主導権を利用者が持てるように、待つ体制を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りお年寄りのペースに合わせ、一人ひとりに応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、一人ひとりに応じた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者の方といっしょに会話をしながら食事をしている。入居者の方も各人の力に合わせ、共に片付けを行っている。	入居者も一緒に食材の買い物をおこなったり、食事の準備や片付けを行っている。季節に応じた料理や出前注文をとったり、天気が良い日は中庭でおやつを食べることもあり、楽しんで食事することができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、また、各人の身体状態に応じた食事形態(おかゆ・刻み・とろみ付)を提供している。また、栄養改善のためのサプリメントを服用して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを行う。必要な方には歯ブラシだけでなく歯間ブラシを使用したり、コンクールを滴下した水でうがいをして頂いている。毎日ポリデントを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導がなされている。また、羞恥心に配慮し自尊心が傷つかないよう支援している。	排泄チェック表の活用や排泄サインから、一人ひとりの排泄パターンが把握できている。また、声かけしできるだけトイレで排泄できるよう支援している。自然排便できるように食物繊維のある食事や健康茶の提供も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり、運動(リハビリ体操・レクリエーション)を行い便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴ができるよう支援している。また、皮膚の痒みがある方はできるだけ入浴を行い、改善できるよう取り組んだ。	いつでも入浴できる準備はできており、入居者の入りたいタイミングでゆっくり入浴ができている。希望者には足浴を行い、リラックスした時間を提供できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促したり、フットマッサージを行うなど、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に勉強会を行ったり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケしたり、童謡の合唱をリードしたり、食器の片づけ、洗濯物たたみ等役割を感じて張り合いを持って取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では車椅子対応の方がほとんどで、外出やドライブは困難なこともあるが、少人数でのドライブで気分転換できるよう心掛けている。	入居者の希望を聞きながら、外出できる機会を設けている。花見や花火大会など四季を楽しむことができる外出や地域のイベントへ出かけることで気分転換ができ、人との交流を図ることができている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の能力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは電話をかけて頂いている。また、家族からかかってきた時は電話の取次等、必要な時に応じて仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計、湿度計、エアコンの活用、また装飾品の変化によって季節感や雰囲気作りが出来るよう努めている。	リビングの窓は大きく光が差しこむため、室内は明るい。また、四季を感じられるような飾りつけや花が生けられており、居心地の良い工夫ができています。空気清浄機や加湿器も設置されており、快適な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの配置などの検討を随時行い利用者の様子を見ながら考えている。ゆったり午睡できるように脚上げ式ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのもの、希望の品などニーズに合わせて、その都度対応している。テレビを希望される方には居室に設置できるようにしている。	居室への持ち込みは可能であり、自宅で使い慣れた物の持ちこみができる。家族との写真や趣味の作品などを飾ったりすることで安心できる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方一人ひとりのできる事を職員間で認識し、各人食器やスプーン・お膳等を工夫して、できる限り自分の力で生活できるように支援している。		